

<p>関わりのスキルアップをはかる</p>				
	<p>和久田ミカ「叱るより聞くでうまくいく子どもの心のコーチング」角川書店 2016 （保護者向け。保護者よりも質の高い関わりをするために。マンガや短い文章で分かりやすく解説）。</p>	<p>げんき編集部 「げんき」エイドル研究所 隔月発売（購読申し込みはホームページ） （子どもの尊重、ポジティブな言葉、生活のスキルを伝える等、関わりの演習用のワークシートと、その使い方を連載中）</p>	<p>岸見一郎「叱らない子育て」学研、2015 （コーチングもカウンセリングも参考になるが、アドラー心理学を根拠にした本も、専門職として読んでおきたい）</p>	<p>谷益美「リーダーのためのファシリテーションスキル」すばる舎 2014 （仕事は対話力。そこにいる誰もがワクワク話せるチームをつくるために活用できる内容）</p>
<p>自分の心をマネジメントする他</p>				
	<p>掛札逸美、保育者のための心の仕組みを知る本 ストレスを活かす 心を守る 2017 ぎょうせい （対人支援の職務によるストレスを、どんな風に活かしていけばいいか。保育者のために書かれた本）</p>	<p>渡辺奈都子「人間関係をしなやかにする たったひとつのルールはじめての選択理論」 ディスカヴァー・トゥエンティワン、2012 （相手が変わらないとイライラしている人に。スルー力を身につけられる本。物語型の人向け）</p>	<p>小原真知子ら「医療・福祉現場のコミュニケーション」コーチング思考で人を理解するための25の事例」三輪書店 2015（園内の人間関係を良くするQ&amp;A）</p>	<p>加藤俊徳「脳が知っている怒らないコツ」かんき出版 2016（すぐ怒鳴る人の対処に困っている人や、自分の怒る習慣を変えたい人に）</p>
<p>乳幼児へのまなざしを磨く</p>				
	<p>井桁容子「ていねいなまなざし」でみる乳幼児保育 2005（深い人間性と知性で、子どもの内面をていねいに読み取る井桁ワールド）</p>	<p>中島久美子 「子どもを信じて待つ保育」（森のようちえんピッコロホームページより購入） （エッセイを読むと、むやみに指導ができなくなってしまう）</p>	<p>「対話」から生まれる乳幼児の学びの物語：子ども主体の保育の実践と環境 2016 大豆生田 啓友（子どもの写真から保育者の視線を変える）</p>	<p>子育て支援ひだまり通信 高山静子 チャイルド本社 2010（大人には理解しがたい 012 歳の発達がわかると、「ダメ」が減る）</p>
<p>特に配慮が必要な子・大人との関わり</p>				
	<p>今井 寿美枝「がまんする力」が育つ保育：河添理論の保育実践パート3 2016 （「はう運動遊び」、「生活と遊び」で育つ子どもたちも有。この3冊は超お薦め）</p>	<p>一松 麻実子 人と関わる力を伸ばす—社会性が幼い子への援助法 鈴木出版 2002 （鈴木出版の発達障害の理解と療育に関する本は、乳幼児の保育に活用できる）</p>	<p>湯汲 英史 子どもが伸びる関わりことば26—発達が気になる子へのことばかけ 鈴木出版 2006 （「切り替えことば」もある。発達協会の研修や冊子も、関わりの参考に）</p>	<p>市橋秀夫「パーソナリティ障害(人格障害)のことがよくわかる本」講談社、2006（理不尽な苦情に、保育者が疲弊したり、振り回されなために）</p>